

ご用命・お問い合わせ先
アペックス産業株式会社

電話 03-3455-6474
FAX 03-3455-6558

＜詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください＞
URL <http://www.apex-sangyo.jp>

●切り取って保存してご利用ください。
キリトリ線

APEX CLUB '15/11

アペックス産業株式会社 第40号

『APEX CLUB』

発行 2015年11月1日(通算40号)
発行所 アペックス産業(株)APEX CLUB編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
ホームページ <http://www.apex-sangyo.jp>
発行人 元木 貢 (編集委員)山口力広、高塚章夫
佐々木 健 (事務局)齊藤久美

ギャラリー

作者/芦屋 小雁

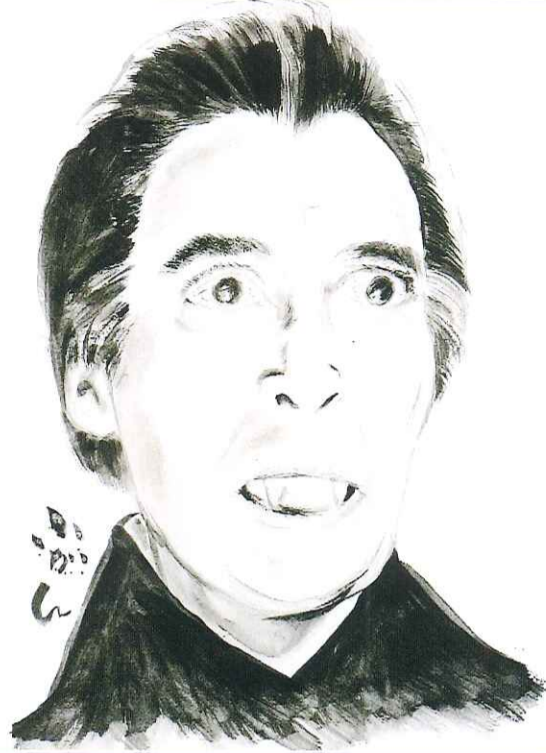


本名・西部英郎。
昭和8年京都府生まれ。
昭和25年頃より寄席劇場に出演。
昭和34年、芦屋雁之助らと劇団「笑いの王国」を結成。
昭和39年、芦屋雁之助を座長に、弟・芦屋雁平を加え
劇団「喜劇座」を結成。舞台・テレビで活躍。
*幼い頃から絵を描くことが好きで、商業美術の道を志したこともある。

★作者略歴★
昭和八年、京都生まれのボクは、小さい頃からお芝居や映画が大好きでした。もちろん、今のように子供向けのお芝居や映画があるわけではありません。そう思うと、きつとおませな子供やったんでしょう。
戦後、一時は制限されていた外国映画が解禁になって、ボクの映画好きは一気に上昇しました。戦前から観ていたホラー映画「ドラキュラ」のドラキュラ伯爵

★作者寸言★

映画、大好き



●今号の「ギャラリー」は
東日本大震災復興支援文化財救済活動チャリティー企画
「文化人・芸能人の多才な美術展二〇一五」
に出展した芦屋小雁さんの作品をご紹介します。



ハクビシン

おじやま虫 Q&A

Q..ハクビシンって何ですか?
A..ジャコウネコ科の哺乳類で、額から鼻にかけて白い線があることが特徴です。果実等を好み木登りが得意で、よくビワの実等の木の葉を餌としています。庭内や家屋内天井裏、床下等に侵入することが多く、天井裏をねぐらにすることがあります。明治時代に中国大陸から移入されたと考えられていますが、移入時期が不確定なため、特定外来生物には指定されていません。
Q..どんな被害がありますか?
A..天井裏に侵入されると、移動の際の大きな足音、糞尿による天井のシミ、被害が進むと、糞の重量により天井が破損することもあります。一時は重症急性呼吸器症候群(SARS)の宿主ではないかと疑われたこともあり、実際はその可能性は低いものの、その他の感染症、寄生虫等を保有している可能性があります。
Q..対策は?
A..家屋内への侵入口を金属板等で封鎖することが第一です。封鎖後天井裏等に残った個体がいる場合は、捕獲器等で捕獲する必要がありますが、行政への申請とわな猟免許が必要です。ハクビシンは体も猫以上と大きく、力もあり、爪、牙も鋭いのでむやみに捕獲しようとすると危険です。行政や専門業者に相談するといいでしよう。

一緒に出展したのは、この方もフランケンシュタイン役で大スターのボリス・カーロフさん。映画は、夢とロマンであるとボクに教えてくれた人たちです。感謝を込めて。 芦屋小雁

「シネマで夢見てたいねん」というボクの映画に対する熱い思いを綴った著作の挿絵として、十数年前に描いた肖像画ですが、お亡くなりになった今年、皆さんに見て頂きたいと思ってお出展しました。

爵役で大スターのクリストファー・リーさんは、大好きな俳優さんです。九十歳で今年の六月に他界されるまで二百五十本以上の映画に出演し、最後まで現役でした。晩年は「ロード・オブ・ザ・リング」「スターウォーズ」にも重要な役で出演されていました。



むし籠

合同会社説明会に参加しました



当社は平成二十一年以降新卒採用がありません。年齢構成から考え、どうしても来年度は新卒社員がほしいところです。
社内で検討を重ね大手就職サイト業者に登録し、合同会社説明会に参加することにしました。
どれくらい反応があるのか、資料は何部用意すればよいのかなど手探り状態です。
不安を抱えたまま当日を迎え、会場に入るとびっくり。会場に入るとすぐの一番目立つ場所が当社のブースでした。ブースに掲示した害虫のポスターが来場者の目を引き立ち止まる学生も多く、会社説明を聞いた学生は二日間で五十三名。予想以上の反応で、ベストコントロールという職業が就職先の一つとして認識されていると感じました。
その結果、七名が採用試験を受け、三名の内定者が確定しました。彼らが十年後当社の中心となって活躍している姿が目に浮かびます。



デング熱蚊サーベイ ランスの取り組み

昨年夏、代々木公園を中心にデング熱の患者が発生したことが話題になりました。デング熱はデングウイルスを蚊が媒介することにより、吸血時に感染します。国内での感染が確認されたのは六十九年ぶりです。

(公社)東京都ベストコントロール協会では、今年も東京都からの依頼を受けて、都営公園での蚊の生息調査(蚊サーベイランス)を行っており、当社も協会の一員として、日比谷公園での調査を毎月行っています。
調査は四月から十一月まで、公園内の五箇所において、CDCトラップによる成虫の捕集や、雨水枡内の幼虫(ボウフラ)を採集し、採集した虫体は、東京都健康安全研究センターに持ち込み、ウイルスを保有していないか検査が行われます。
幸いこれまで、デングウイルスの検出はなく、日比谷公園では、成虫そのものの捕獲も少ない状況です。全国的にもみても、現在までデング熱患者の国内の感染はありませんが、今後も調査を継続していくことが、感染症の予防にはとても大切です。

虫めがね

東日本大震災の復興支援

東日本大震災から四年半が過ぎました。これまでに復興支援という名目で毎年、三陸海岸を訪れています。一回目は、震災から半年後の九月、所属するベストコントロール協会(害虫防除の全国協会)が、全国から延べ九千人を募り、腐敗した魚介類から大量発生したハエの駆除作業を行った時でした。
陸前高田の市街は一面の雑草地と化し、いたるところに船や車が転がっていました。道の駅は四階あたりまで津波が通り抜け、一本松がけなげに残っていました。
二回目は翌年、八戸へ。
三回目は宮古から田老町を訪れました。浄土ヶ浜には明治の大津波、昭和の大津波、チリ津波の津波の高さが刻まれていました。
今回の津波はそれらを大幅に上回るものでした。田老町では海面からの高さ十メートルという大防波堤の倍の高さの津波が押し寄せ、かさ上げされた防波堤が破壊されるほどの凄まじさでした。

四回目は八戸から、開通した三陸鉄道北リアス線乗り継ぎ宮古へ。今年の八月には、松島から宮古を巡りました。陸前高田では巨大なベルトコンベアが山から海岸まで建設され、街を十メートルかさ上げする工事の真っ最中。街が出来上がるまでにあと五年、十年はかかるという壮大な復興計画でした。
過去の災害を繰り返さない、という強い決意と、今の日本の国力を改めて感じた次第です。



山は削り取られ、大型ベルトコンベアでかさ上げ工事中。復興はまだだ(2015年8月)